

おわりに

2018年10月に調査を始めて、かなり駆け足でデータをまとめました。

今まで、全国LD親の会の会員対象の調査を行ったことは何回かあったのですが、今回は、NPO法人全国LD親の会以外の発達障害関係の会や支援機関にも協力いただき、調査を行いました。調査を行う段階で色々な話が出てきて、頭の中では「色々な人がいる」と分かっていたつもりでも、「自分中心の考えに固まっていた」ことに気づかされたことは、個人的に大きな収穫でした。

アンケート結果をまとめていて最初に気づいたのは、「一番苦手なこと」という設問に複数回答した人が2割に上ったことです。アンケート集計では、設問どおりに回答を得られないことがよくあるのですが、「顕在化されにくい読み書き困難」の調査の手始めに「読み書き」を最も苦手とする人とそうで無い人に分けようとした意図が外されてしまい、どのようにまとめるかに難儀しました。もともと、設問どおりに回答が得られないということは、「設問を読んで内容を理解する」ことが苦手ということを意味するので、「かなりの数の人が『文章を読んで理解すること』を苦手とすること」は設問の意図とは違ってもしっかり数字に表れました。

また、いろいろITを利用した支援が話題になっている中、アンケートでは、昔からある方法や人的な方法の方が重要視されていました。ITを利用した支援があまり知れ渡っていないのかもしれないと思いました。

いただいた貴重な情報を、できるだけわかりやすく伝えたいと思ってまとめましたが、データが多いので、数字が小さくて見にくくなったところも出てきてしまいました。アンケートの回答の単独集計表を資料として付けましたので、調査委員とは別の見方で検討いただければ幸いです。

最後になりましたが、プライバシーにも関わる答えにくい質問に回答してくださった皆様、お忙しい中インタビューに応じていただいた皆様に感謝いたします。

2019年3月

特定非営利活動法人全国LD親の会
理事 東條 裕志